

4 Workshop

地域の革新性を育む 環境教育ワークショップ

人間が生活の豊かさを追求した結果、時として自然環境の破壊へとつながってきたとの認識が高まっています。又、分権化の流れの中で、これまでの経済的側面のみを重視した開発から、社会の持つ多様な資源、能力、主体の参加のもとに、人々のライフスタイルや、選択、価値観、行動の変革に焦点を当てた持続可能な開発へと、社会の潮流が変化してきています。その社会的変化に対応し、長期的な視点に立って環境保全や地域づくりを行っていくには、人々が社会状況の変化に迅速に対応し、時には従来とは違った方法を編み出しながら取り組みを行っていく創造性や行動力を育むことが必要です。このような「地域の革新性」を育む環境学習は、地域づくりのプロセスと結びつけて実施する必要があります。これまでにも、様々な主体のパートナーシップのもとで、地域にある資源や知識を活用した環境学習の取り組みが各地で行われてきました。「地域の革新性」を育むための環境学習のあり方はどのようなものか？ 又、その際の行政としての役割とは？ 本ワークショップでは、行政や地域が一丸となって先進的な取り組みを行っている西宮市の事例をもとに、参加者とともに今後の環境学習のあり方と、行政としての役割について考えました。

■目的

- 市民が主体的に行う環境教育・学習を推進する為に行政職員が果たすべき役割について考える機会を作る。
- 地域づくりという視点から環境教育の可能性を探る。
- 環境教育担当官のネットワークを築く場を提供する。

■配慮したこと

- 時間が限られているため、出来るだけ運営側や講師が話す時間を短くし、参加者がディスカッションやグループワークを通してお互いの経験を共有し合い、交流を深めることが出来るようにプログラムを作成しました。
- あらかじめ各参加者が直面している課題についてアンケート調査を行い、出された課題を3つのテーマに分けてグループディスカッションを行うことで、参加者が、経験に基

づいて焦点を絞った議論を行い、実践で役立つアイデアを得ることが出来るようにプログラムを組み立てました。

■流れ

10:00-10:05	開会のことば ジェリー・ベラスケズ（国連大学・地球環境パートナーシッププラザ）
10:05-10:15	「イノベティブ・コミュニティー」プロジェクトの紹介 吉村スーザン（国連大学・地球環境パートナーシッププラザ）
10:15-10:35	参加者の自己紹介 自己紹介の時、「環境教育・学習」と聞いて思い浮かべるキーワードを二つあげてもらい、ホワイトボードに書き出していました。
10:35-11:15	「西宮市における環境学習を通した地域づくり」 西宮市環境都市推進課課長 小川雅由氏
11:15-12:00	グループワーク 事前に行ったアンケート調査の結果をもとにグループ分けを行い、下記のテーマについて課題を洗い出し、参加者の間での意見交換や、解決策について話し合いました。出された意見は模造紙にまとめ、発表してもらいました。 - A グループ「環境学習における異なるセクター間の連携」 - B グループ「地域の特徴を生かした環境学習プログラム」 - C グループ「市民主体で行う環境学習プログラムにおける行政の役割と支援のあり方」
12:00-12:25	まとめと質疑応答 小川氏による各グループの発表に対するコメントと、ワークショップ全体のまとめを行いました。
12:25-12:30	アンケート用紙の記入、閉会

■ 「環境教育」と聞いて、参加者が挙げたキーワード

各参加者に自己紹介の際、「環境教育」と聞いて思い浮かぶキーワードを2つずつ挙げてもらいました。下記のように様々なキーワードが挙げられ、各参加者の持つ環境教育のイメージを参加者全員と共有することができました。又、各参加者の経歴や環境教育に関して抱えている課題についても共有することができ、小川氏のプレゼンテーションに向けた導入として、良いブレインストーミングの機会になりました。

マンネリ化、情報、コミュニケーション、「学ぶ」と「楽しむ」のバランス、学校教育と地域社会の連携、市民参加、地域（まち）づくり、異なる主体間の連携（NPO を含め）、プログラム、派遣、環境教育のターゲットは？ いつでもどこでも誰とでも、地域教育、生涯教育、子どもと川、発見と感動、評価と検証、市民のエンパワーメント、生活、土着の知識と資源、包括的

■グループ作業で出てきた回答

A グループ「環境学習における異なるセクター間の連携」

まず各セクターが連携の必要性を認識することが重要です。特に小規模の自治体など、まだ NPO の活動があまり活発ではないところでは、行政がホームページ上での情報提供を行うなどして「つなぐ」ための働きかけをしていくなど、小さな連携を少しずつ広げて大きな連携につなげていくことも重要です。環境問題は一目テーマが異なっている問題でも密接に関連しており、解決に向けた取り組みにおいても異なるテーマ間での連携が必要となります。環境学習プログラムの実施において連携を進めて行く際に、これまでに行政が関与してきた環境関連団体をまず把握することも必要です。又、学校と地域との連携に関しては、総合学習などを通して、まず教師が「学ぶ」姿勢を持つことが重要であり、そのことで学校と地域が連携を深めていけたらよいのではないのでしょうか。

B グループ「地域の特徴を生かした環境学習プログラム」

地域の特性を生かしたプログラムは各地域によって異なるため、直接、他の場所で使用することは出来ません。地域の特性を考える際、多くのテーマが考えられます。例えば、海・山・川など自然環境についての特性やごみや温暖化など環境問題についての特性。又、社会貢献活動を活発に行っている企業の存在や、住民の気質も地域の特性となります。プログラムを作る側がまず地域について理解を深めた上で、特性を生かした体験型の学習プログラムを作る必要があります。又、環境学習のプログラムは「結果」ではなく、「プロセス」であるとの認識も重要です。学習プログラムは毎回変わるものであり、プロセス作りに関わったものに知識や経験は蓄積されていきます。従って、どの主体が環境学習プログラム作りに関わるべきなのか、についてはじっくり考える必要があります。



グループワークの風景

C グループ「市民主体で行う環境学習プログラムにおける行政の役割と支援のあり方」

市民が主体で既に行っている活動（まちづくり、フリーマーケット、自然観察会、グリーンコンシューマー運動など）をいかにして環境学習につなげていくか、という視点から議論を行いました。行政は、市民に、これらの活動が環境学習につながるのだと気付いてもらい、団体間をつないでいく役割を担っています。このようなコーディネートを行う拠点作りや人材育成、情報提供が重要です。又、庁内の異なる部署でどのような取り組みが行われているかについて把握し、庁内の連携を図ることも必要です。環境学習プログラムの。評価に関しては、市民と事業者、専門家の参加も得た上で、官民共同で評価軸の作成や、評価を行っていく時代になってきているのではないのでしょうか。

■アンケートの回答から（抜粋）

- グループワークを通して他の参加者と話し合う機会を得られたことはとてもよかったと思います。他の自治体の取り組み状況について知ることが出来、刺激になりました。
- 西宮市の事例に基づいた具体的な話が聞けてとても参考になりました。
- ワークショップで得た知識と情報を持ち帰り、周りとは共有するとともに、是非現場で活かしていきたいと考えています。
- なぜ地域ごとの環境学習プログラムが必要なのかが理解できました。環境学習では、体験を通して気付くことが必要で、そのためには自分の身近な環境で体験を通して学習することが重要です。発想の転換になりました。
- メールやホームページを通して、是非、今後も参加者との情報交換を続けていきたいです。今回の参加者が地元に戻られて、実際に地域の環境教育を今後どのように進められていくのかについて、とても興味を持っています。
- 時間が足りないと感じました。半日くらいあってもよいのではないのでしょうか。特にグループワークの時間がもう少し必要だと感じました。
- 各地域での開催や日程を複数設定するなど、より参加がし易くなるように工夫をして欲しいです。
- 今回、国連大学がどのような機関か初めて知ることが出来たことも、ワークショップに参加して良かった点のひとつです。



小川氏によるプレゼンテーション

■スタッフのまとめ

- 小川氏の話は、同じ自治体職員として、参加者にとって行政職員の役割を再考する良い機会になったのではないのでしょうか。アンケートには、西宮市の事例がとても参考になったとの声が寄せられました。
- グループワークに時間を割くことで、参加者間で情報や経験の交換が出来たことはよか

ったと思います。同じ立場にいる参加者間での情報交換は、とても有益だったようです。更に時間があればより深い議論に導けたかもしれません。全体的に時間不足だったのが残念でした。又、今回できたネットワークを、MLを通じて今後いかに活用してもらえ
るかが課題となります。

- 場の雰囲気が始終硬いままでした。ワークショップ開始直後に、参加者間での交流の場をもう少し増やしたら雰囲気が和んだかもしれません。参加者が自由に意見を言えるような雰囲気づくりという意味で、「アイス・ブレイク」は重要だと感じました。また、より活発な意見交換を促すためにも、事前アンケートであげられた参加者が抱える課題についてまとめたものを、参加者に配っておけば良かったと思われます。

■参加者リスト

自治体名	課名	担当者名
秋田県	環境政策課	池田孝
東京都	企画調整課	石田好広
和歌山県	健康体育課	佐本明
和歌山県	環境生活総務課	溝本政行
広島県	循環型社会推進室	長谷茂夫
香川県	環境・水政策課	白岩美夏
名古屋市	環境都市推進課	茂谷誠
大阪市	環境情報課	春木 崇
宮城県	環境政策課	佐藤秀彦
兵庫県	環境政策課	富士谷陽
熊本県	環境政策課	本田雅隆
川崎市	環境調整課	吉川サナエ

■スタッフより一言

●大庭るみ

地域に根ざした環境学習を進めていく際、行政、市民の明確な役割分担とパートナーシップが必須であることを再確認しました。また、同じ立場にある人達が集まり、経験や課題を共有する場の必要性を感じました。

✎ 吉村スーザン

「イノベティブ・コミュニティ」プロジェクトでは、市民の視点から地域づくりを考えることが多いのですが、今回は、行政の視点という違った角度で地域づくりを考えるいい機会になりました。

✎ 八代真紀子

ワークショップを通して、参加者の方々がお互いの経験を共有し合い、気付きの場と

して活用していただけたことは運営側にとっても励みになりました。又、自分にとり、地域根ざした環境学習について考えるととてもよい機会になりました。

✎ 八重樫満

異なるセクター間の連携とともに行政内（部局間）の連携の必要性を感じました。このワークショップをきっかけに、環境学習を通して維持可能なコミュニティが各地域で芽生えていくことを期待しています。